

これからも
ずっと、
麻ひとすじ



since 1944

知的資産経営報告書 2012

滋賀麻工業株式会社

1 ご挨拶

当社は昭和 19 年創業以来 65 年余り、湖東地域で地場産業（近江の麻）と共に、より豊かに、より幸せのための人生でありたいと願っています。その長年のノウハウと技術を活用し、地球環境にやさしい天然素材を主体に、いつまでも美しくありたい、そして健康で過ごしたい方のために、素材の特性を活かしたエコロジー性を意識したモノ作りとマーケティング戦略の経営を展開して参ります。



取締役社長
山田 清史

2 経営理念

事業を通して関係者に信頼され愛され喜ばれる企業となることを目指します。



環境にやさしい物づくり。

- ① 人材なくして企業なし
- ② 情報なくして経営なし
- ③ 物（商品、顧客、市場）なくして営業なし
- ④ 企業の血液はお金である

3 事業概要 ～ 4 つの事業部 ～

■ 和装 伝統の技を活かしたものづくり

麻を広く・深く・身近にをコンセプトとし伝統ある近江の技を現代に生かし、着手と作り手が「麻」を通してしあわせを共有できるお手伝いをします。糸の選別から「染め」「織り」「加工」全てを吟味し、伝統の技を現代に生かした、こだわりのある商品を展開しております。



近江
ちぢみ

”近江ちぢみ”は伝統ある技術によって織り上げられた生地に昔ながらの匠の技と新しい技法を駆使して創り出された ”しぼ” 加工品です。形状保持性に優れた ”しぼ” はその形状から肌との接触面が少なくべとつき感もありません。通気性があり爽やかな清涼感が味わえます。

また、”揉み込み”による加工が生地の硬さを和らげ、シャリ感と抜群の肌触りが得られます。

■ 洋 装 時代のニーズに応える企画開発を行い提案

ファッションでは、欠かす事のできないトレンド。日々変わるお客様のニーズにあわせるため、各工程で、国内や海外の生産地から優れた技術や素材を研究し、最先端技術を融合させ、日々新しい商品を試作し提案します。

■ 寝 装 麻の心地よさを広く伝える

人にも環境にも優しい天然繊維『麻』を寝装分野へ。麻は吸放湿性・通気性に優れ、寝具に大変適した魅力を持っています。機能性、デザイン性ともに最高品質の麻の寝装品を自信を持ってご提案いたします。



企画準備

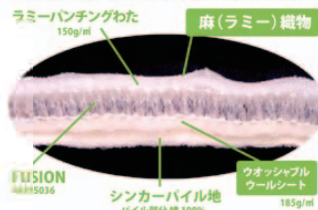


思考錯誤



夏涼しく冬暖かい オールシーズンパット

天然素材の麻・ウール。それぞれ持つ優れた特性のコラボ商品



麻の良さ + ウールの良さ
夏に向いている 冬に向いている
涼しい、吸放湿性に優れている。 保温性に優れている。温かい。
繊維冷感がある。 繊維冷感がある。

組み合わせる事によって、
オールシーズン天然素材で
快適に眠ることができます

モニターアンケート結果!!
総合的な評価では、
オールシーズンパットは
良いとの回答が夏場は98.1%、
冬場は99.2%に達しました。

■ 原 糸 麻の原点をじっくりと眺める

自然の素材で出来たものを意識して使う時が来ていると思われる現在、天然繊維を主に生産してきた会社として、エコロジーで人の健康と地球環境に良い、リネンとラミー糸を使った商品の企画提案をしていただける方が増えることを願い原糸の販売をしました。
自社で使用できる原糸が揃ったので 2006 年からストックサービス販売をしています。



4 近江の麻

■ 地域のブランド

我が国で一番大きく美しい琵琶湖。その周囲に比良、比叡、伊吹の山々がめぐる風光明媚な近江。その湖東地域に郷土産業の中で最も古い伝統を誇る「近江の麻」産地があります。近江の国は、真中に全面積の1/6を占める琵琶湖と鈴鹿山脈から溢れ出る清水など全体から見て非常に高温多湿で、内陸性の気候になっています。このような自然環境条件に恵まれて、湖東地域は麻織物の産地として大きく発展しました。

■ 愛荘・東近江市での麻産業

麻産地には湿潤な気候が求められ、雪深い越後や能登、琉球の亜熱帯性の多湿な気候など、それぞれ麻織物に適しています。“近江の麻”の湖東産地は、滋賀県の「水がめ」びわ湖の東岸に位置し、遠くには鈴鹿山脈を望んでいます。産地は、豊かな水を湛える湖面からの湿潤な空気（霧）と、鈴鹿山系から湧き出る清らかで豊富な水量の「愛知川」が産地のまん中を流れるなど、自然の恵みの中で発展してきた産地です。



▶ 麻の道具

手さき手紡ぎの麻糸を巻く道具（右）
手紡ぎした麻糸を入れていく
芳うみ桶（左）



▶ 地機での手織り風景

織っている布を腰に巻きつけ、足で経糸を上下
させ、手で緯（ヨコ）糸を入れて織っていく。



▶ 丸紅商店呉羽会賞状

昭和16年（株）丸紅商店（現丸紅株式会社）呉
羽会から受賞した。麻上布織優勝賞状



▶ 高機で近江上布を織る

色を染めた緯（ヨコ）糸を1本1本 合して織り
柄模様が出来ていく。



▶ 近江上布伝統産業会館

明治、大正、昭和の諸帳簿、機織道具、商品
見本等が展示してあります。



▶ 「麻コレ2008」の展示風景

愛荘町立歴史文化博物館で毎年行われる。
麻コレクション風景（屋外でのファッションショ
ーも実施）

過去から現在

～ウォッシュブル麻わたの開発経緯～

昭和 19 年

創業

- ・ 芯地の専門メーカーとして創業
- ・ 当時は和装と併用して、戦時中に求められた軍服や落下傘の生地を作っていた
- ・ その後は小幅・着物を主体とした事業に

昭和 50 年代

洋装化の時代

- ・ 洋装化の時代を迎え、シャツやジャケットなどの洋装制作を志向
- ・ 「麻で洋装」という発想そのものがなかった中、滋賀県麻織物工業協同組合が中心となって洋装化に取り組む（滋賀麻工業でもファッション関係のデザイン学校で、洋装の商品づくりを学んだ）
- ・ 昭和 56 年 京都産業会館にて麻の洋装展示会開催（開館以来の大入）
- ・ 展示会の成果を元に、和装&洋装へと業態変化。テキスタイルまで制作し、メーカーに直接・間接に売っていった。



平成 15 年

クールビズ対応 完成品（寝具）の志向

- ・ 「クールビズ」の時代が到来し、従来からの事業を見直していくことに
- ・ 環境問題先進県の企業として、CO₂削減に役立つ「持続可能な商品」を志向
- ・ あわせて政府による中小製造業への完成品づくり推奨もあったため、得意先と競合しない寝装の検討をスタート

平成 17 年

洗える麻綿の開発を スタート

- ・ 中国の紡績の品質が上がったことから、原糸の直接輸入をスタート
- ・ ラミーを湖南省（滋賀県と姉妹都市提携）から輸入し麻わたの原料に
- ・ 夏物は「1日着たら洗いたい」。洗える寝具もそこから発想。寝具大手のブランドに参入成功

平成 20 年

完成品の試作に挑戦

- ・ 滋賀県市場化ステージ支援事業による、洗える麻わた開発を実施
- ・ しが新事業応援ファンド（3ヵ年）による、新製品開発を実施

洗える麻わた



35g/m²～200g/m²

過去から現在

～ウォッシュブル麻わたの開発経緯～

平成 21 年

洗える麻綿の特許出願

- ・京都工業繊維大学の教授、滋賀県発明協会の先生との出会いをきっかけに特許出願へ



平成 22 年代

ウォッシュブル麻わたの完成

- ・洗える麻綿による商品展開（ベビー用品、襦袢、肌着など）



平成 24 年

地域産業資源事業認定

- ・地域産業資源活用事業のもと、製品開発や販路拡大を進める（敷きパッドの商品展開スタート）
- ・抗菌性などが期待される「草わた」の研究開発を進める



当社の知的資産

～「ウォッシュابل麻わた」と新製品を生み出す源泉～

1 ウォッシュابل麻わたの特徴

① 家庭用洗濯機で洗える

従来の麻わたは選択するとちぎれてしまうという弱点がありました。当社独自の製造技術により圧縮加工して強度を高めたウォッシュابل麻わたは、42g/㎡の薄さでも、ちぎれず、家庭用洗濯機での洗濯にも繰り返し耐えられます。

② 通気性・吸湿性・放湿性に優れる

麻わたは本来、綿わたやポリエステルわたと比べて吸湿性や放湿性に優れています。ウォッシュابل麻わたシートは、その低容量化にも関わらず、従来の麻わたと同等の抜群の吸放湿性を有しています。つまり、湿気の多いわが国において、湿気を抑えた快適な寝床内気候に近づけることができます。

③ 清潔で衛生的

麻の繊維であるセルロース系繊維は、虫類の食用にならず、防虫効果が期待できます。洗濯により汚れを落としやすく、ラミー麻わたは天然の抗菌防臭性もありますので、清潔さが要求される用途に活用できます。

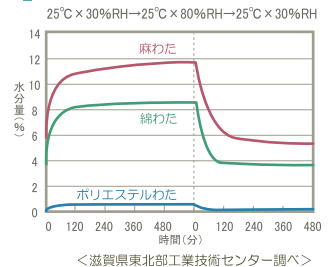
④ 通年使うことができる

麻・ウールのリバーシブル加工をした「オールシーズン敷きパッド」は、夏は麻でサラサラと涼しく、冬はウールでポカポカと暖かくしかもムレずに、オールシーズン天然素材で快適に眠ることができます。

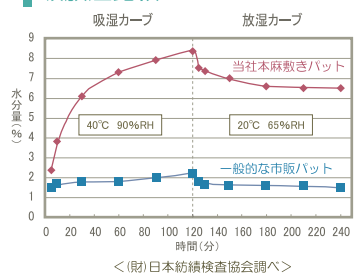
⑤ 様々な生活環境での使用が可能

ウォッシュابل麻わたは多用途であり、寝具にとどまらず様々な生活シーンで活用することが可能です。

わた吸放湿特性比較

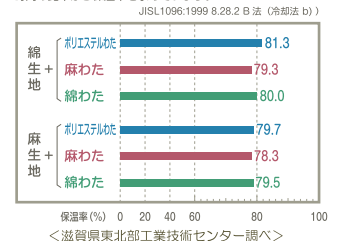


吸放湿比較(含水率の変化)

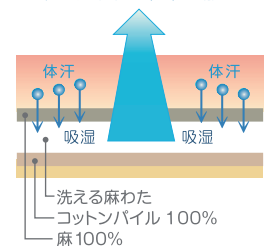


わた保温率

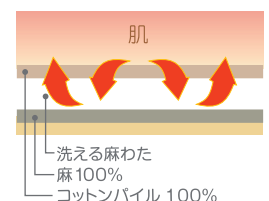
麻わたは、ポリエステルわた・綿わたと同じような暖かさです。試料がある場合とない場合について、1℃冷却するのに要する時間の比率から保温率を求めています。



汗や湿気を素早く放出



空気を多く含む麻わたは想像以上に温かです。



節電・省エネ・体に優しい素材として、現代のニーズにマッチしています

当社の知的資産

～「ウォッシュブル麻わた」と新製品を生み出す源泉～

2 新製品を生み出す源泉

1 「最終製品開発」へのこだわり

■ 創立以来の経験を土台にした試作力

当社では、業界内で先駆けて洋装化の時代に対応してきた経験を土台に、年間約 1,000 件の試作品を制作できていることが大きな強みとなっています。それにより、顧客に提案するための「見本」を作っていくことができます。もちろん試作は件数だけでなく、顧客との綿密な話し合いを重ねながら先見性のある採択可能性の高いものを試作していくことを基本としております。

■ 製造から販売（ソフト分野）への対応力

寝具分野への進出の頃から「最終製品」の販売にこだわっております。中小製造業が苦手とする、意匠（デザイン）、ラベルや販売ルートといったソフト部門の対応の中で苦労して手に入れてきたノウハウも当社の強みとなっています。現在も、デザインレベルの向上のため、プロデザイナーによる講習を取り入れるなど、最終製品開発に必須となるソフト分野への対応力を高めております。

■ 思い切ったチャレンジを可能とする、既存事業の存在

新分野へのチャレンジは、単独事業だけの会社ではリスクが伴います。その点、当社では伝統の和装を始め洋装テキスタイル等既存事業を保ちつつ、新しい分野にチャレンジできるという、リスクの少ない経営が可能であるという点も強みとなっております。



当社の知的資産

～「ウォッシュブル麻わた」と新製品を生み出す源泉～

②「現場」から時代の流れを見る力

■ 最終製品に注目してのマーケットイン

当社では、「ロハス」「環境問題」といった新しい時代ニーズへの対応に、会社一丸となって取り組んできております。具体的には、洋装化の時代の頃から「売り場を見よ」をモットーとしてまいりました。

滋賀麻工業(株)の視点

i) 高級品の売り場を見る

麻製品は高級品分野がメインとなっており、当社でも価格競争ではなく、自国・自社生産のウエイトを高めた品質競争を目指しております。

ii) 売り場のトレンドを見る

売り場面積が増えている・減っていない売り場は「採算が採れている」と見ることができます。どのような分野がトレンドなのか、必ずチェックするようにしています。

■ 環境先進県滋賀の伝統産業として

当社では「環境にやさしい物づくり」を経営理念に掲げ、CO2削減に資する商品づくりにこだわり続けております。現在は3K（環境・健康・観光）とりわけ「環境」と「健康」に関連した商品づくりを進めています。



「第一回しが低炭素リーダー賞」受賞



当社の知的資産

～「ウォッシュブル麻わた」と新製品を生み出す源泉～

③「新商品」へのこだわり ～チャレンジする社風へ～

■ 順調なうちに一歩前へ

著しいグローバル化の中、大企業であっても旧製品だけでは生き残れない時代となっています。中小企業である当社も、時代のニーズに対応して変化を遂げてきたことにより生き残れたのだと考えております。そのため、現在のヒット商品が売れているうちに次の新商品を考えなければ、すぐに逆風は吹きます。そのため当社では、最低でもマイナーチェンジを図るよう心がけている。

■ チャレンジする社風へ

当社の社員は、出張や外回りの際に必ず売り場を観察しています。現場を見て感じた知恵や提案は必ず社内会議で出し合うようにしており、年間回数にすると、会社として延べ400日は百貨店等の売り場情報を観測・共有していることになります。

また OFFJT* として、外部のプロデザイナーによる研修・アドバイスの場や、社内での新商品づくりの会議を月1～2回のペースで設けております。そして、当社では社員各々の裁量による、一定規模の試作品開発も推奨しております。

社員が主体的に関心を持って、意見を出し合って新製品を生み出し、個人のノウハウを会社全体のノウハウにしていけること。そんな「チャレンジする社風」こそ、当社の一歩の強みとなっております。

*OFFJT とは、現場を離れ、日常業務外で行われる教育のこと



外部の評価

(メディア掲載、顧客の声)

■ 洗える本麻敷きパッド 「ちちんぷいぷい」 購入者アンケートより

- ・ **88%**の使用者が「大変よい」「よい」の評価
(心地よさ・涼しさ・肌触り・快適睡眠等)
- ・ **84%**の使用者が「涼しさを感じた」の評価
- ・ クーラー使用者のうち **75%**にクーラーの使用時間の短縮効果
- ・ 洗濯をした使用者のうち **84%**から「良く洗濯でき、乾きが早かった」の評価

■ 汗取り和装下着 夏場着用者40名の評価より

- ・ **82.5%**の着用者が、従来下着と比べての総合評価が上回った
- ・ 着用者の声「汗を素早く吸収し、外着の濡れもなく、肌をさらっと心地よく保ち、従来の汗によるベトベトから解放された」「汗を拭きながらの仕事・作業がなかった」「洗濯の乾きが早く、1日2回着用している」「手放せない」

■ オールシーズンパット 利用者の声

「べたつきがないので気持ちよく眠れた」
「扇風機を当てると温度が下がって気持ちよい」
「さらっとして心地よく眠れた。丸洗い可能で夏冬兼用なので便利」

夏の
利用者

「布団に入った時に柔らかなクッションがあるので
肌触りが良い」
「暖かさも保たれ、湯たんぽがいらないほどに。床に入るのが楽になりました」
「手軽でとても使い良いのでありがたく使わせていただいています」

冬の
利用者



寝装リビング
(平成22年11月21日)



中日新聞



滋賀+1 (平成22年1・2号)



京都新聞 (平成23年9月19日)

1 知的資産経営のストーリー

■知的資産

- ①「最終製品開発」へのこだわり
- ②「現場」から時代の流れを見る力
- ③「新商品」へのこだわり

時代のニーズに合わせた
「提案力」をもつ会社風土と組織力

時代のニーズへの対応により、生み出されたウォッシュブル麻わたの優位性

■知的資産経営の方向性

- ・グローバル化への対応（東アジアへの輸出も志向。世界の中の滋賀麻に）
- ・世界のものを日本に取り入れていく

具体的な
施策

- ・グローバル化に対応した人材採用
（グローバルマーケット担当を1名採用予定）
- ・デザイン力をはじめとしたソフト分野の人材育成

2 数値目標（KPI）と事業計画

■数値目標

- ・5年後(平成29年5月期)売上高目標 25%UP
（うちウォッシュブル麻わたの売上高 300%UP）

3 事業計画

1年目（平成24年6月～平成25年5月）

オールシーズンタイプのクールウォームパッドと多用途パットの試作をスタート（クールウォームパッドは10月より販売開始）。

2年目（平成25年6月～平成26年5月）

葎わたの開発・試作の実施。大阪バリアフリー展・東京国際ギフトショー等への出展によるPR。

3年目（平成26年6月～平成27年5月）

葎わたの本格試験の実施。多用途パッドの新商品展開。

4年目（平成27年6月～平成28年5月）

麻わたの最薄化シートを用いた衣料の商品化。

5年目（平成28年6月～平成29年5月）

販路確立と新商品提案（ベビー用品など）。



知的資産経営報告書

平成 24 年度版

知的資産経営報告書に関するお問い合わせ先

滋賀麻工業株式会社 代表

滋賀県愛知郡愛荘町市 583

TEL 0749-42-2525

URL <http://www.shigaasa.jp/>

知的資産経営報告書とは

「知的資産」とはノウハウやネットワークなど、従来の財務諸表だけでは見えない無形の資産の総称であり、企業における競争力の源泉です。「知的資産経営報告書」は、各種ステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した経営戦略を目に見える形でお伝えするものであり、経済産業省の「知的資産経営の開示ガイドライン」に準拠して作成しております。

本書ご利用上のご注意

本書の掲載内容は、すべて現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて記載しております。そのため、将来の経営環境の変化によっては、当社が将来において実施又は実現する内容が、本書と異なる可能性もあることをご了承願います。

作成支援・監修専門家

本知的資産経営報告書の作成にあたっては、記載内容の客観性を維持・向上させる趣旨から、次に掲げる専門家のご支援・ご監修を賜りました。

- 中小企業診断士 高見啓一（たかみ けいいち）氏
（登録：中小企業支援ネットワーク強化事業登録専門家）
- 中小企業支援ネットワーク機関
滋賀県中小企業団体中央会 中嶋和繁（なかじま かずしげ）氏